

資料 1

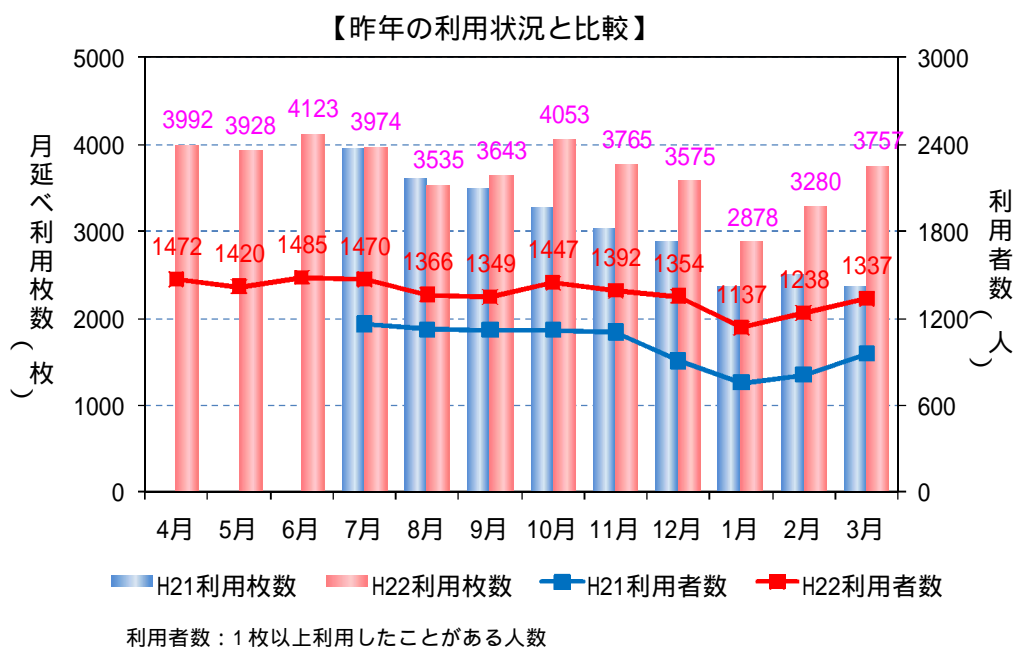
平成22年度事業報告について(概要版)

# 1. 高齢者の割引サービス

## 1) 利用状況表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
利用補助券数	3,992	3,928	4,123	3,974	3,535	3,643	4,053	3,765
利用者数	1,472	1,420	1,485	1,470	1,366	1,349	1,447	1,392
平均使用枚数	2.7	2.8	2.8	2.7	2.6	2.7	2.8	2.7

	12月	1月	2月	3月	計	H21年度実績	増減
利用補助券数	3,575	2,878	3,280	3,757	44,503	27,452	17,051
利用者数	1,354	1,137	1,238	1,337	2,633	2,210	423
平均使用枚数	2.6	2.5	2.6	2.8	-	-	-



	平成 22 年度	参考：平成 21 年度実績
期間	平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月	平成 21 年 7 月～平成 22 年 3 月
対象者（75 歳以上）	14,188 人（H23.3.31 現在）	14,755 人
申請者	3,396 人	
利用者数 （うち新規利用者数） （うち利用回数が増加）	2,633 人（19%） 1,128 人 786 人	2,210 人（15%） 265 人 389 人

#### 昨年からの利用者数の変化

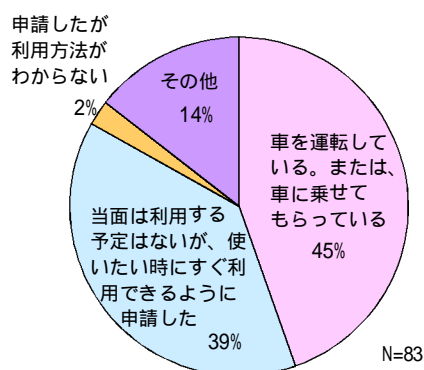
	平成 21 年度 (H21.7.1～ H22.3.31)	平成 22 年度 (H22.4.1～ H23.3.31)	継続して利用している人の内訳	
			回数が増加した人	786 人
継続して 利用している人	1,505 人	1,505 人	回数が減った人	699 人
			回数が変わらない人	20 人
乗らなくなった人 乗れなくなった人	705 人 <sup>2</sup>	0 人	X	
新規利用者		1,128 人		
計	2,210 人	2,633 人 <sup>1</sup> (+423 人)		

1 運賃割引申請者数：3,396 人（H23.3.31 現在）

2 死亡者 82 人、転出者 13 人、H22 未利用者 610 人（未登録者 507 人）

申請者数 3,396 人に対して利用者数 2,633 人であり、申請しているが利用しない人が 763 人いる。

アンケート調査より、  
申請したが利用しない理由



新規利用者・利用回数増加者ともに、昨年を大きく上回る結果となっている。

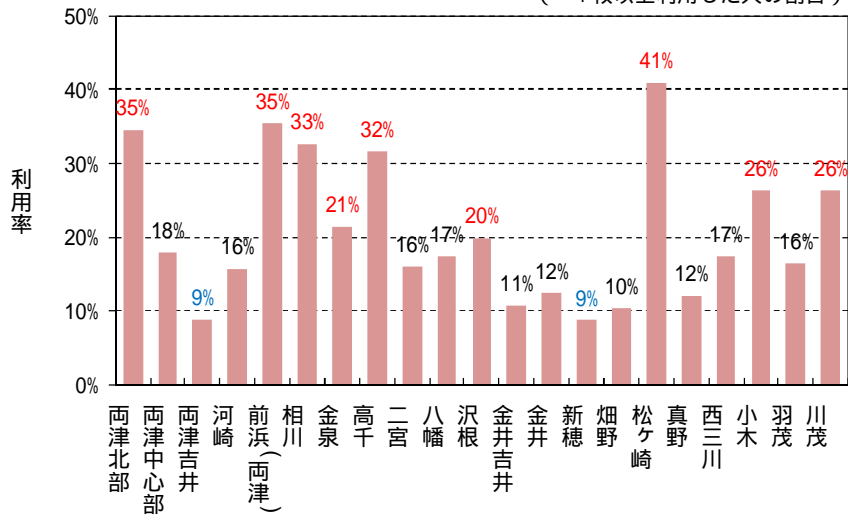
しかし、さらに詳細な内訳「昨年からの利用者数の変化」を見ると、利用しなくなった人・利用回数が減少した人も多くいることがわかる。

利用しなくなった人は 705 名おり、うち死亡、転出などにより利用できなくなった人が 95 名である。残り 610 名について、昨年度の割引サービスでの月平均利用枚数は 0.5 枚と少なく、また、うち 103 名がサービス申請は行っているが利用をしていないことから、元々利用頻度が少なく機会があれば利用する方が、たまたま今回は利用していないだけではないかと推測する。

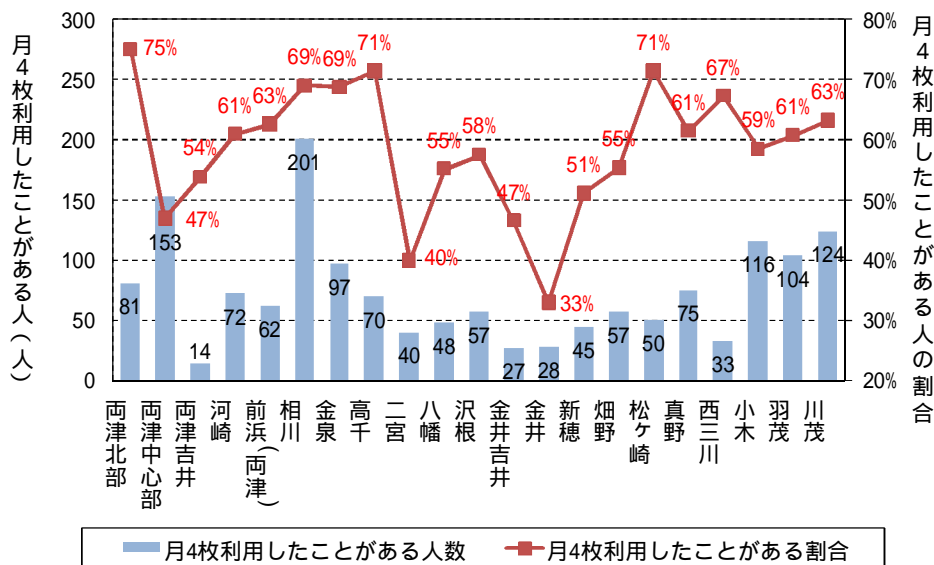
## 2) 地区別利用状況表

【地区別利用割合（利用者数 / 地区別 75 歳以上人口）

（ 1 枚以上利用した人の割合 ）



【利用者の内、月 4 枚利用したことがある人の割合とその数】



資料データ：H22 年 4 月 1 日～H23 年 3 月 31 日

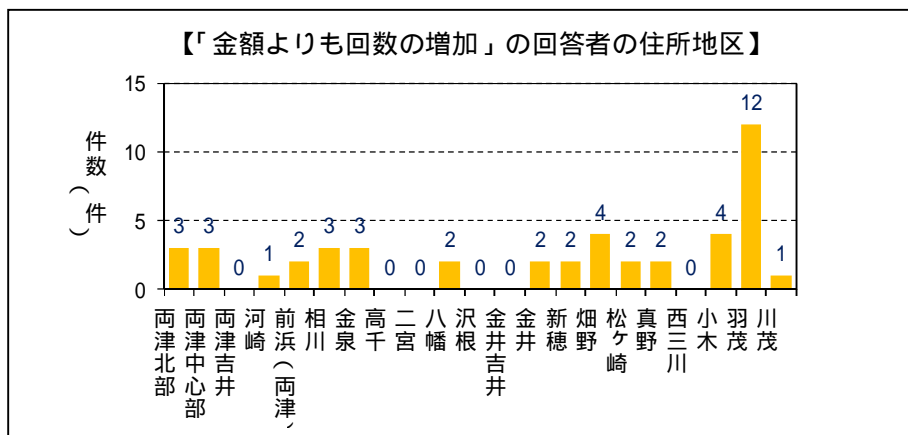
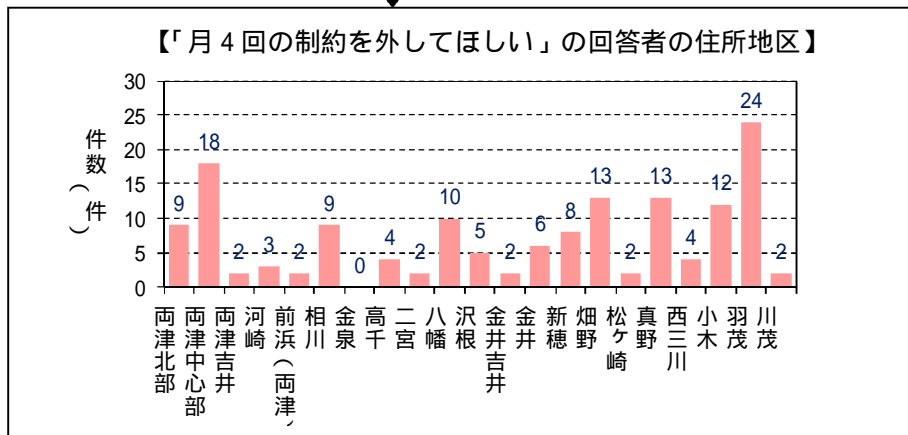
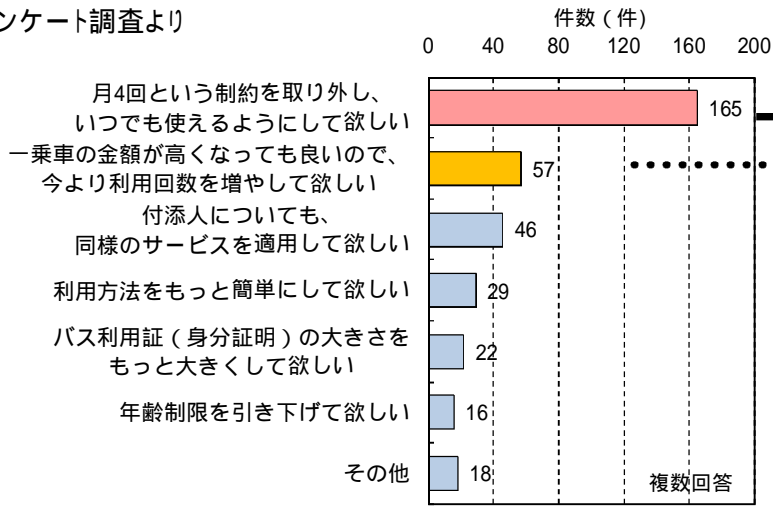
地区別の利用割合（利用者数/75 歳以上人口）は、郊外部の「両津北部」、「前浜」、「松ヶ崎」、「相川」、「高千」で 30% を超えており、国仲平野の「両津吉井」、「金井吉井」、「新穂」、「畑野」で 10% からそれ以下となっている。

月最多枚数（4 枚）を利用したことがある人は相川地区で 201 人であり、利用者の内 4 枚利用したことがある割合は、「両津北部」、「高千」、「松ヶ崎」で 70% を越えている。

このことから特に相川地区での需要が高いことがうかがえる。

### 3) 改善要望

アンケート調査より



サービスの改善については、「月4回の制約を外してほしい」との意見が最も多く、地区別では「羽茂」、「両津中心部」の順となっている。また、改善要望で2番目に多い「金額よりも回数の増加」では、「羽茂」地区からの要望が最も多かった。

## 2. 病院乗入れサービス

### 1) 内海府線 (H22.4.1 ~ H23.3.31)

佐和田行き		真更川行き	
利用者数	5,724 人	利用者数	6,631 人
1 便あたり利用数	11.7 人 (490 便)	1 便あたり利用数	13.5 人 (490 便)
(うち両津病院降車数)	549 人 (10%)	(うち両津病院乗車数)	520 人 (8%)
(うち佐渡病院降車数)	844 人 (15%)	(うち佐渡病院乗車数)	286 人 (4%)

「佐渡病院」は「佐和田行き（通院時）」の利用が 844 人であるが、「真更川行き（帰宅時）」の利用が 286 人と半数以下である。これはヒアリング結果からも帰宅の時間帯が需要とあっていないためである。

#### 【改善の可能性】

他の路線・便でも、乗換券を利用できるようにする。

参考意見：現地等でのヒアリング調査より

1 日 1 便だったら直通便を出して欲しい。帰りの時間も 14:37 でなく、13:30 頃に出して欲しい。

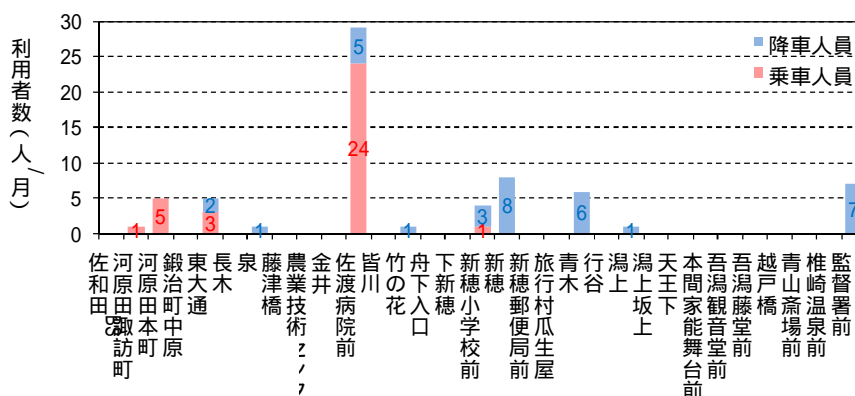
帰りの際、14:37 だと遅すぎるので普通の便も乗換えを認めてほしい。

#### 検証：期間限定での佐渡病院 11 時台発の増便の実績

内容：ジャンボタクシーを活用し、期間限定で佐渡病院 11 時台発の便を運行する。

期間：H22.12.1 ~ H23.1.31（平日のみ） 便数：40 便

#### 【12 月から 1 月までの追加実験の乗換えサービス（増便）の利用状況】



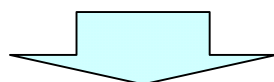
「真更川行」の便の「佐渡病院発」の時刻を乗換えサービスを考慮し、内海府線・東海岸線の接続時間に合わせ 11 時台に増便をしたが、34 人/2 カ月（40 便）の利用にとどまった。乗換えサービス利用者も 6 人のみであった。

新穂地区の利用が多い。乗換え便を考慮せず、新穂地区をターゲットとした時間設定により、利用者が増加する可能性が考えられる。

## 2) 東海岸線 (H22.4.1 ~ H23.3.31)

両津行き		岩首行き	
利用者数	5,897 人	利用者数	4,169 人
1 便あたり利用数	12.0 人 (490 便)	1 便あたり利用数	8.5 人 (490 便)
(うち両津病院降車数)	618 人 (10.4%)	(うち両津病院乗車数)	231 人 (5.5%)
(うち監督署での乗換数)	135 人 (2.2%)	(うち監督署での乗換数)	252 人 (6.0%)

病院乗り入れサービスの利用状況は以下のようになっており、特に「両津行」では「両津病院」での降車が 618 人と多く利用されている。一方で、「岩首行」での「両津病院」での乗車は 231 人である。「両津病院」は周辺に商店街があるため帰宅時に買い物等を行い「両津病院」以外の停留所を利用していることが、他の動態調査等からも推測される。



### 【改善の可能性】

内海府線の改善とほぼ同じ内容となり、内海府線と連動しながらの改善を行う必要がある。

乗換えの可能なポイントや乗換対応可能な便の拡大をする。

参考意見：現地等でのヒアリング調査より

1 日 1 便だったら直通便を出して欲しい。帰りの時間も 14:37 でなく、13:30 頃に出して欲しい。

帰りの際、14:37 だと遅すぎるので普通の便も乗換えを認めてほしい。

帰路は 14:37 では、遅すぎるので 13:35 の岩首線で帰る。

## 3) 乗換えサービスの利用状況 (H22.4.1 ~ H23.3.31)

	発行数 (A)	対象者数 <sup>1</sup> (B)	利用者の割合 (A/B)
前浜線 赤泊線	114	787	14%
東海岸線 内海府線 (ジャンボタクシー 東海岸線 <sup>2</sup> ) (ジャンボタクシー 内海府線 <sup>2</sup> )	98 (3) (3)	1,309	7%
度津線 小木線	23	235	10%
赤泊山の手線 赤泊線 (H22.4.1 ~ 9.30)	0	41	0%
外三崎線 小木線 (H22.4.1 ~ 9.30)	0	74	0%
計	235	2,433	

1 対象者数：補助券より対象便と沿線地区(住所)より試算

2 ( ) は H22.12.1 からのタクシーによる追加実験の実績 (東海岸線 内海府線の内数)

3 対象期間：H22.4.1 ~ 12.31

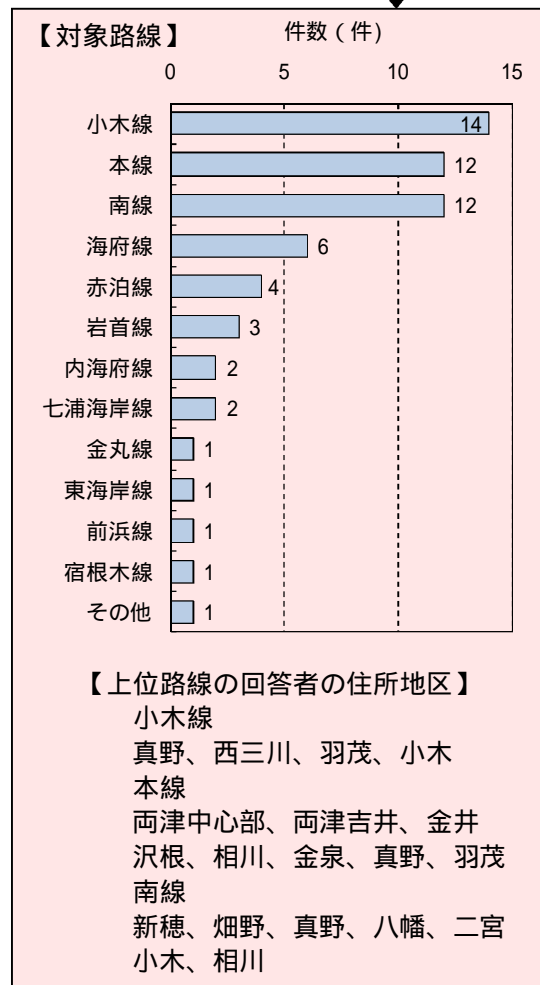
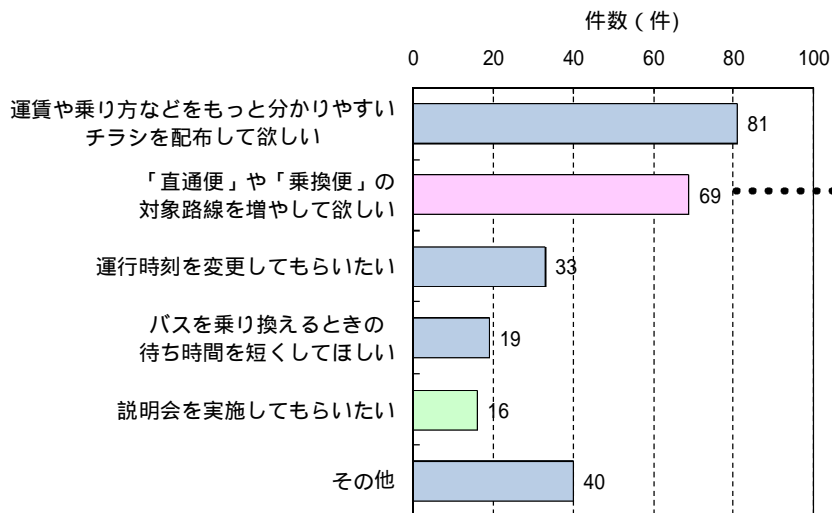
### ヒアリング調査による改善要望

相川海府方面からの乗換を認めて欲しい。

#### 4) 改善要望(アンケート調査より)

「直通便・乗換便」の改善については、「現状ではわかりにくい」ため、分かりやすいチラシ、説明会等の実施が望まれている。

運行に関しては対象路線の増加が望まれており、路線別では特に「小木線」、「本線」、「南線」が多い。





### 3. 観光二次交通の充実

#### 1) 利用実績 [5ヶ月間(H22.7～11月)の各停留所乗降者数]

	H22年度	(H21年度)	増減		H22年度	(H21年度)	増減
佐渡金山	1,384	1,736	352	尖閣湾揚島	378	412	34
佐渡版画村	79	142	63	両津港	1,393	1,630	237
相川博物館	75	138	63	椎崎温泉	54	73	19
歴史伝説館	600	955	355	能舞台	49	182	133
アルコール王国	150		150	潟上温泉	140	193	53
吉岡臨時	66	63	3	トキの森公園	1,401	1,554	153
国分寺	60	58	2	宿根木	305	170	135
妙宣寺	123	198	75	太鼓橋交流館	41		41
大膳神社	59	103	44	沢崎	81	52	29
尖閣湾達者	261	252	9	西三川 GP	46	398	352
				合計	6,745	8,309	1,564

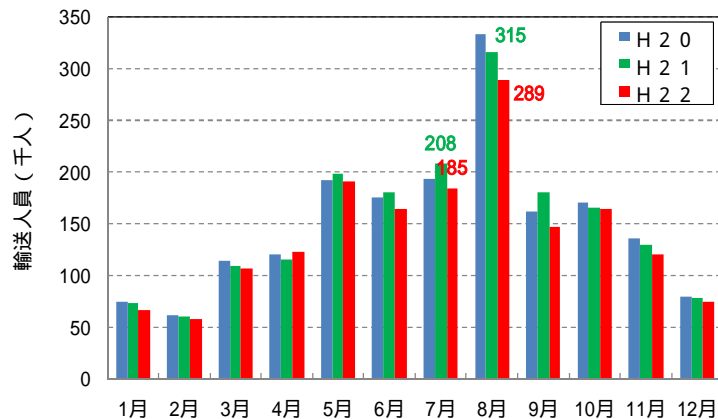
#### 月別利用状況

月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
H22年度	1,461	2,271	1,217	1,125	671	6,745
H21年度	966	2,367	2,746	1,189	1,041	8,309
増減	495	96	1,529	64	370	1,564

全体的に昨年と比較し、利用者が減少している。南部地区、飛鳥路のみ増加。  
7月は昨年と比較し、増加傾向にあり8月以降は減少したが、「佐渡金山」や「トキの森公園」は月単位では増加している月もある。全体的な減少の大きな要因として、おおさど丸の故障及び昨年度はDC、シルバーウィークにより、観光客が増加していたためと考えられる。

参考資料：佐渡航路の輸送実績

図 佐渡航路の月別輸送実績（全航路）

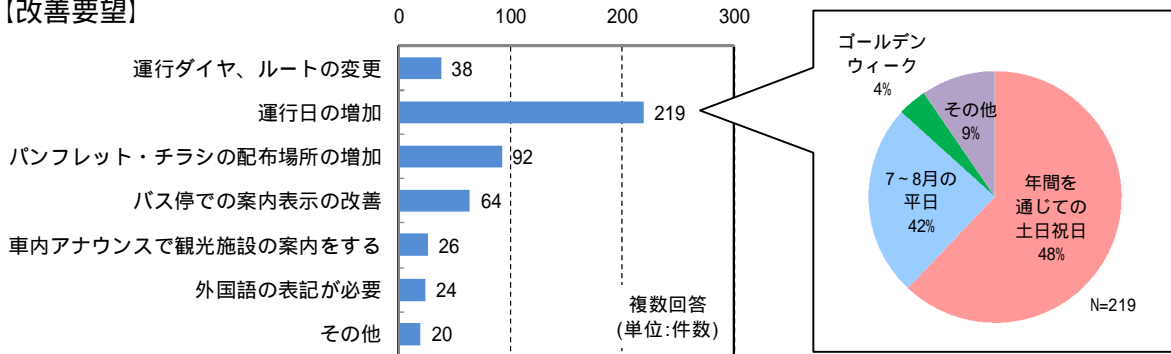


## 2) アンケート調査

前年度の満足度（運行ダイヤ）と比較すると、「満足」・「やや満足」の合算で6%アップしており、一定の改善効果が現れている。

改善要望として、運行日の増加が最も多く、内訳として「年間を通じての土日祝（48%）」、「7～8月の平日（42%）」に要望が集中している。

### 【改善要望】



検証：平成 23 年 3 月実施の観光二次交通施策の実施結果（実施日：3/19、3/20、3/21、3/26）

### (1) 利用実績

40 便（10 便/1 日）

乗降区間	人数（人）							
	3月19日		3月20日		3月21日		計	
	大人	小人	大人	小人	大人	小人	大人	小人
両津港佐渡汽船 トキの森公園	2	0	4	1	2		8	1
トキの森公園 両津港佐渡汽船	2	0	4	1			6	1
トキの森公園 大膳神社					2		2	0
大膳神社 畑野十字路	1	0					1	0
潟上温泉 両津港佐渡汽船			1				1	0
計								20

3月26日は利用者なし

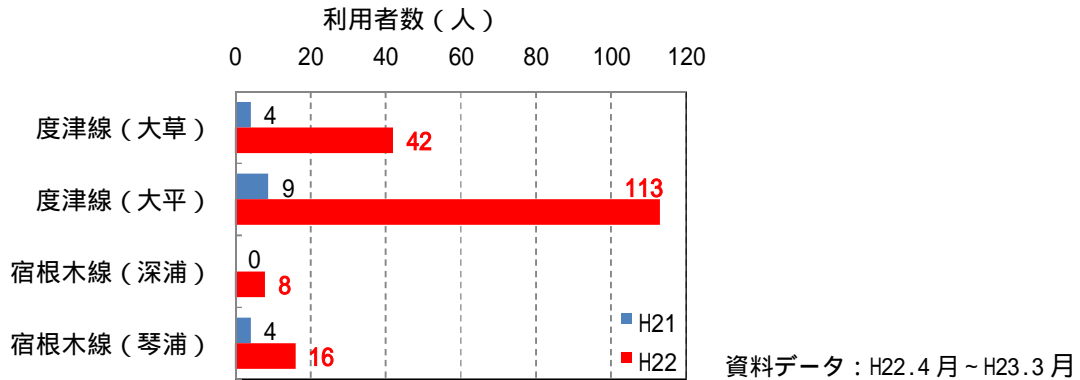
### (2) アンケートの主な結果〔7名から回答〕

設問	回答	人数
住所	新潟県内	7名
佐渡への観光回数	はじめて	3名
	2～5回目	4名
観光地経由型バスの認知時期	旅行前	4名
	当日	3名
観光地経由型バスの認知媒体	インターネット	1名
	チラシ・パンフレット	4名
利用バス停（複数回答）	両津港	5名
	トキの森公園	5名
運賃支払い方法	現金	5名
	フリー券	2名

40 便運行に対し、利用が 20 名に留まった。震災によるイベント中止などの影響もあるため、更なる検証が必要と考えられる。

## 4. 南部地区運行サービスの見直し

### 1) 宿根木線・度津線(H21年度:デマンド H22年度:定時定路線)



昨年と比較し、利用者数が各停留所で増加している。これは、需要があるが、利用者に高齢者が多いことから、昨年度のデマンド(電話予約での運行)の手法が適していなかったことが考えられる。

### 2) 外三崎線(H21年度:週3運行 H22年度:週1運行)

H21年度：H21.10月～H22.3月  
H22年度：H22.4月～H22.9月

年度	小木 羽茂		羽茂 小木	
	H22年度	H21年度	H22年度	H21年度
利用者数	63人	93人	30人	51人
1便あたり利用数	2.7人	1.6人	1.3人	0.9人

資料データ：H22.4月～9月

昨年と比較し、運行本数(運行日)が3日/週 1日/週に減少したため、利用者数も減少している。「金田新田」では約半分となっているが、他の停留所は大きく減少していない。平均乗車人員は運行本数の減少により増加しているが「小木 羽茂」で2.7人/便程度である。区間別では「小木港～江積」間は利用者がほとんどないが、「金田新田～羽茂高校前」の間は需要があるため、運行経路等の見直しを行う必要がある。

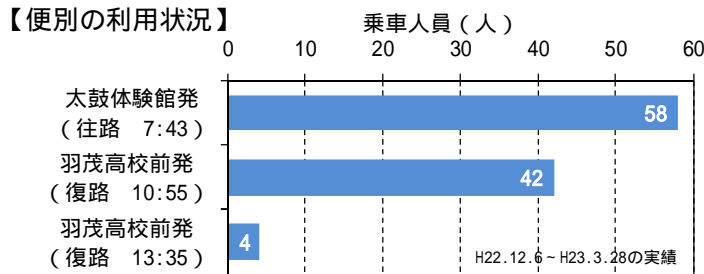
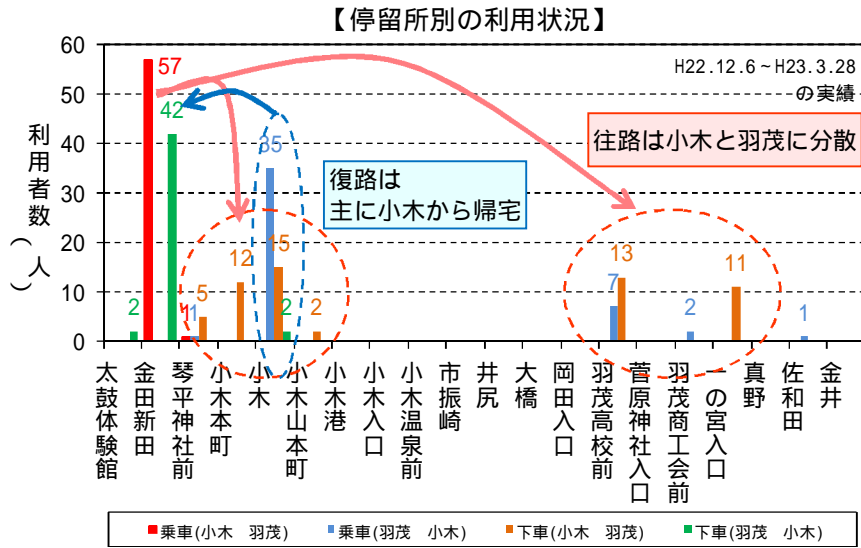
### 3) 赤泊山の手線(H21年度:デマンド H22年度:週1運行)

H21年度：H21.10月～H22.3月  
H22年度：H22.4月～H22.9月

年度	荇場 赤泊(行き便)		赤泊 荇場(帰り便)	
	H22年度	H21年度	H22年度	H21年度
利用者数	0人	1人	0人	1人

昨年度に利用が少なかった赤泊の交通空白地域で、アンケートやヒアリング結果をもとに運行方法を変えながら実施したが、利用がない状況である。

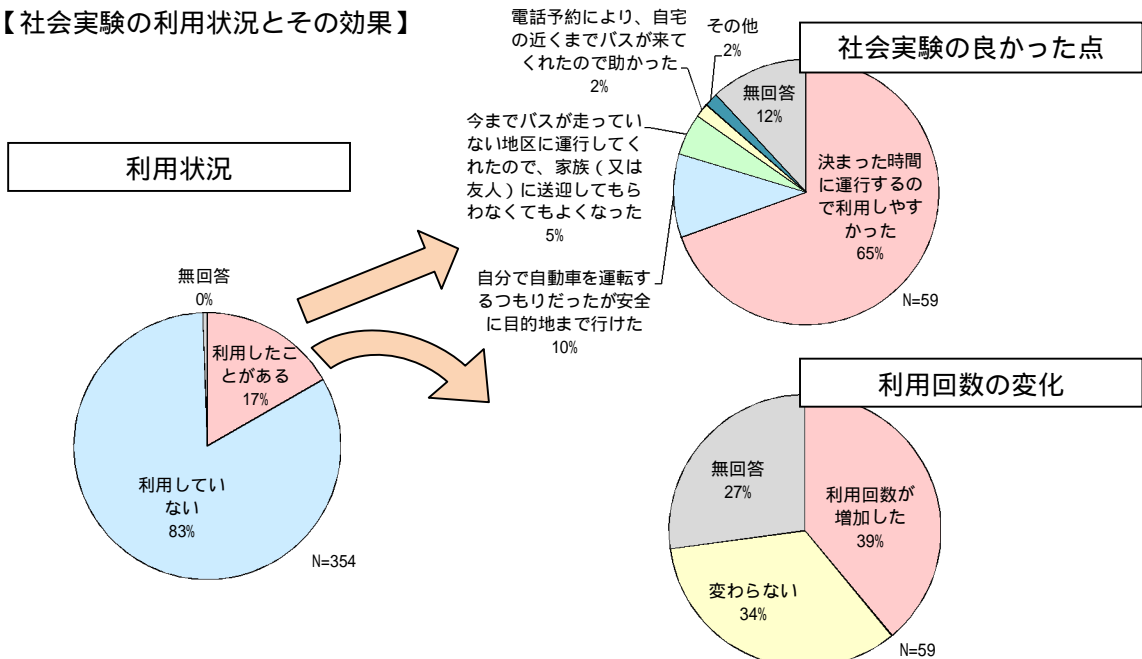
#### 4) 金田新田線 (H22.12月 ~ H23.3月)



H22.12.6 から金田新田線として新たに運行を開始した路線は、月曜日のみ 17 日運行しており、「金田新田」で 57 人/17 日の利用者となっている。(1 便あたり 3.3 人)  
便別では、太鼓体験館「7:43」発と羽茂高校前「10:55」発の利用であり、羽茂高校前発「13:35」(佐渡病院利用者帰宅用)は、ほとんど利用されていない。

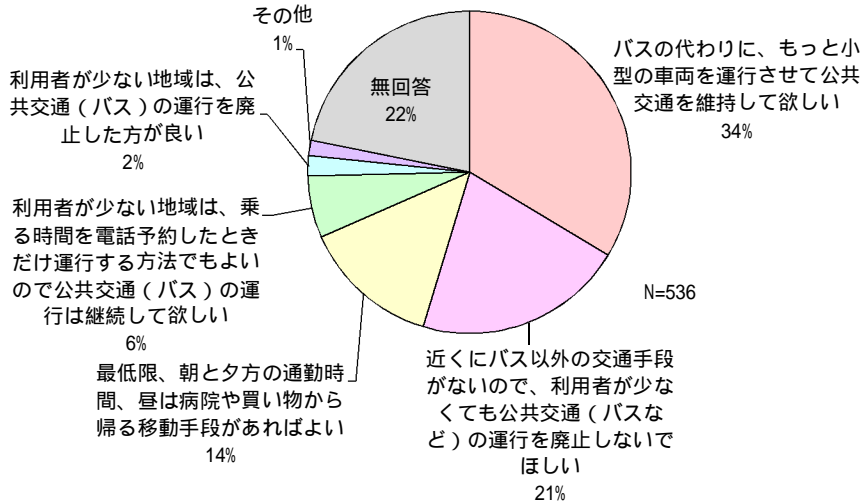
#### 5) アンケート調査

##### 【社会実験の利用状況とその効果】



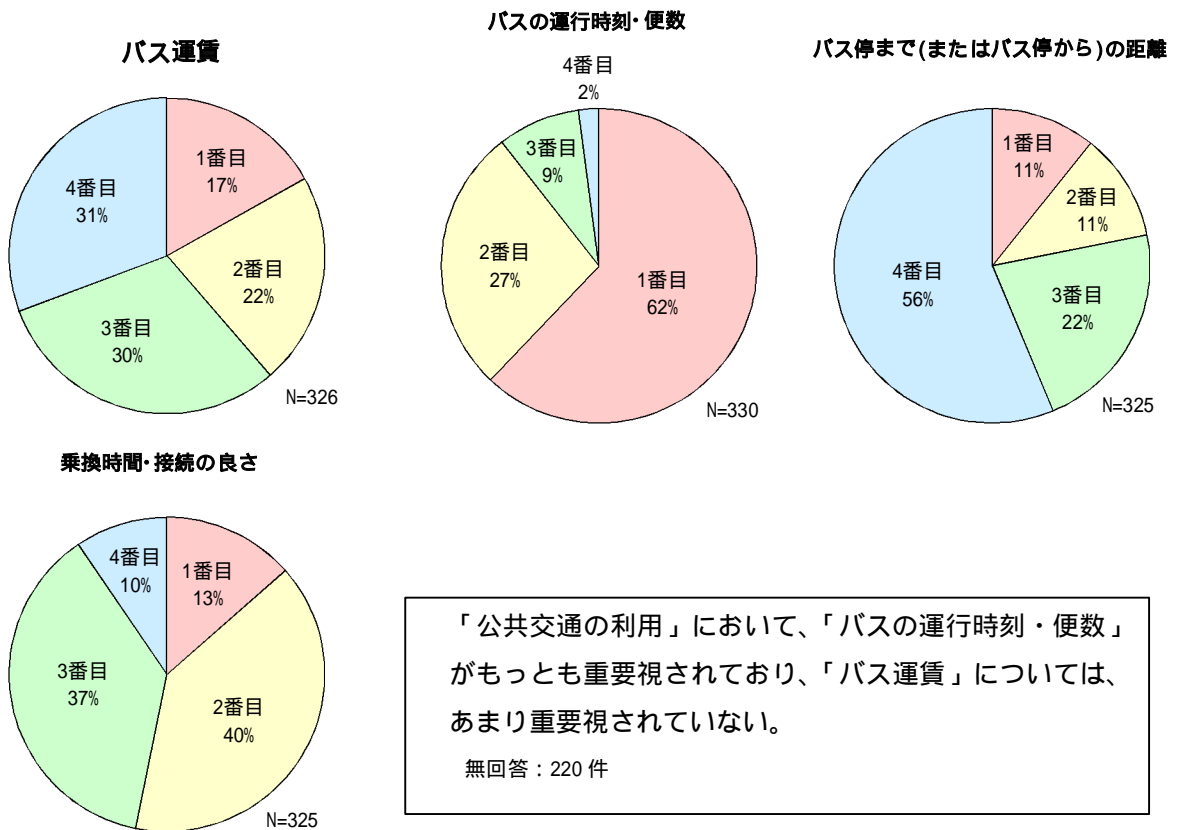
社会実験のバスの利用は少ないが、「良かった点」や「利用回数の増加」などの効果を見ると、利用してもらえれば、その効果が現れると考えられる。

【公共交通の必要性】



「公共交通の必要性」は維持する要望が多く、中での「バスの代わりにもっと小型の車両を運行させて公共交通を維持してほしい」との意見が多く、公共交通の形状は関係なく、維持することが重要であると考えられる。

【公共交通の利用にあたって重要視する要素】

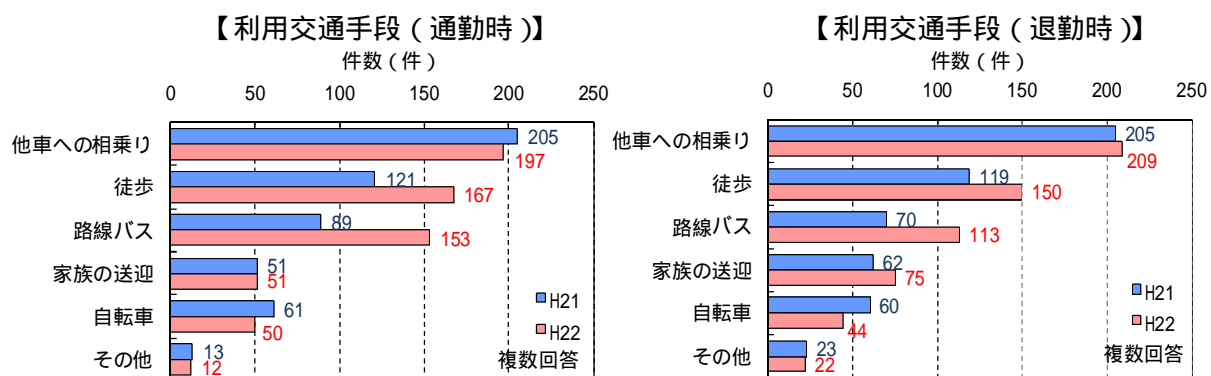


## 5. ノーマイカーデーについて

### 1) 参加者数

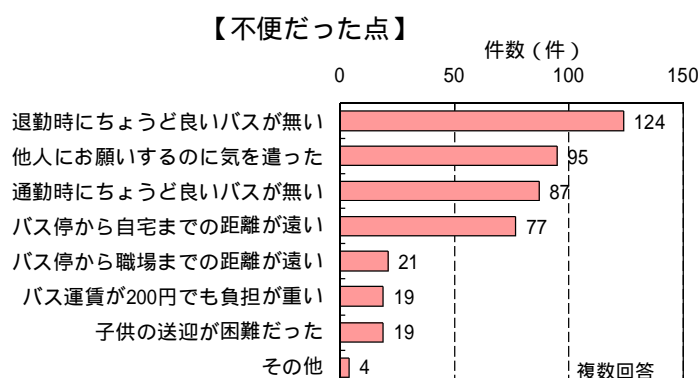
	11月							合計	参考 H21
	24日 (水)	25日 (木)	26日 (金)	27日 (土)	28日 (日)	29日 (月)	30日 (火)		
市職員	57	43	54	8	3	31	35	231	273
市職員以外	66	82	85	27	16	62	69	407	377
合計	123	125	139	35	19	93	104	638	650

### 2) 参加者の交通手段(複数回答)



利用者は「他車への相乗り」が昨年と同様に最も多く、次いで「徒歩」、「路線バス」であった。順位は変わらないが、昨年と比較すると「路線バス」の利用者が増加している。これは、ノーマイカーデー特別料金の効果があったものと考えられる。

### 2) アンケート調査



路線バスでの参加者のうち、本線の利用が最も多く、次いで南線という結果となった。特別運賃により、バス利用者は増加したが、退勤時のバス運行時刻に対する不満が多く課題となっている。

